



復元された特攻機



掩体壕(えんたいごう)



飛行第四聯隊營門

記念館から、車で10分もかからず掩体壕が見られます。敵の攻撃から戦闘機を守るために格納庫で現存するの格納庫で現存するのは、ここだけで傷みが激しくなったために鉄骨などで補強されています。一度は訪れてほし

地でもあります。今も残された戦争の傷跡を残すと多くの戦跡が保存され、大刀

北九州市の小倉には造兵廠があり、八幡には製鐵所があつたため、終戰間際、B29による大規模な空爆がありました。筑前町の大刀洗飛行場も東洋」と謳われ軍都として栄えており、激しい空爆を経験しました。特攻の中継基地としても多くの特攻隊員を見送った地でもあります。

今も残された戦争の傷跡を残すと多くの戦跡が保存され、大刀

洗平和祈念館には復元された特攻機「九七式戦闘機」や「ゼロ戦三二型」そして、幻と言わ用された「震電」の実物大模型が展示され、撮影も許可されています。展示されているものに特攻に散った若者の遺品や家族にあてた手紙などもあり、恋人や

記念館から徒歩で2

歩く3分で憲兵隊隊舎の煉瓦塀があり、敷地内には隊長官舎や厩舎が残っています。そこから、2分歩くと飛行第四聯隊營門がポツンと立っています。その近くに射撃訓練の観測用に使われていた監的壕がありますが、かなり傷んでいます。

また、記念館の道路を隔てた前の施設は、20数年前まで私設の大刀洗平和祈念館として国鉄甘木線の大刀洗駅舎を利用し運営していましたが、筑前町立の平和記念館が開設され、大刀洗レトロステーションとして貴重な品々と展示し甘木鉄道駅舎を利用して運営していましたが、筑前町立の平和記念館が開設され、大刀洗駅への地下通路なども見ることができます。

大刀洗平和祈念館取材記

特集1

福岡県労連では戦後80年プロジェクトとして様々なアクションに取り組む予定としています。その一環として今号から数回にわたって、戦後80年特集をお届けいたします。この機会に80年前の戦争とこれからの日本と世界の平和について考えてみませんか。



大刀洗平和資料館

原水爆禁止運動の歴史と役割について

特集2

核廃絶に向けた取り組み

1945年8月6日 午前8時15分、広島。

午前11時2分、長崎。

9日午前11時2分、長崎。

2発の原爆が、歴史上はじめて実戦で使用されました。原爆の被害はすさまじく、広島では14万人、長崎では17万4千人が亡くなりました。生き残った被爆者も放射能の後遺障害に悩まされ、肉体的な被害だけでなく精神的な被害だけでなく苦しんできました。原爆被害は戦後10年近く、GHQの占領下でプレスコードが敷かれ、新聞・出版が統制されたため、広く知られることがありませんでした。国民党に広く知れ渡るようになつたきっかけは、54年3月1日に米国が太平洋・ビキニ環礁でおこなった水爆実験でした。周囲に降つた「死の灰」をあびた日

までです。

また、記念館の道路

を隔てた前の施設は、

20数年前まで私設の大刀洗平和祈念館として

国鉄甘木線の大刀洗

駅舎を利用し運営され

ていましたが、筑前町

立の平和記念館が開設

され、大刀洗駅への地下通路

なども見ることができます。

記念館から、車で10

分もかからず掩体壕が

見られます。敵の攻撃

から戦闘機を守るため

の格納庫で現存するの

は、ここだけで傷みが激

しくなったために鉄骨

などを補強されています。

一度は訪れてほし

い戦跡でした。

本のマグロ漁船「第五福竜丸」の乗組員23人が被ばくし、同年9月に40歳の若さで亡くなりました。この実験の被害が広く知られる

と、広島・長崎に続く

無線長の久保山愛吉さ

りになりました。

この実験の被害が広く

知られる

と、広島・長崎に続く

無線長の久保山愛吉さ

りになりました。

この実験の被害が広く

知られる